「植物の生き方に学ぶ」

植物は一度、根を生やすと、そこからは動きません。そこで、外敵から身を守るため、「生えてきてみてから、その環境に合わせて体の形を決める」という特殊な能力を持っています。

それは例えば、枝が折れたり、根が切れても、それに変わる新しい枝や根が出てきたり、挿し木や接木(つぎき)でも芽を出す、といった能力です。

この能力のことを「細胞分化の全能性」と言います。

その点、動物は生まれる前から構造の形が決まっているので、細胞分化の能力はほとんどありません。

例えば、生前に指を作るように運命づけられた細胞は、出生後、何かの事故で指を失ってしまったら、もう指を作る細胞は出来ません。
これに較べると植物は、まことに融通無碍な生き方をしていることが分かります。

これは、私たちにとって大変、参考になると思います。
私たちの人生にも、植物と同じように枝を折られたり、根が切られるような出来事に会うことがあります。
そんな時、私たちの心には当然、悲しみや傷みが起こります。
折られた枝や根が小さければ、何日かすれば、忘れてしまいます。
ところが、思いもよらない大きな枝や根が切られるような事に出会った時はどうでしょうか。
そんな時は、「忘れようにも忘れられない」そんな思いが、いつまでも残り、悲しみや傷みも一段と深まります。

しかし、そんな苦難を乗り越えて、たくましく生き抜く道が、この人生には、ただ一つ開かれています。
それが、お念仏のみ教えなのです。

それは、植物の細胞分化の能力に通じるものがあると思います。
否、植物以上に見事な枝や根を細胞分化していくことの出来る道であります。

お念仏のみ教えは私たちに、阿弥陀さまの大悲心がなぜ起こされたのか、誰のために起こされたのか、そのことを教えて下さいます。

「如来の作願(さがん)をたづぬれば、苦悩の有情(うじょう)を捨てずして、回向を首としたまいて、大悲心をば成就せり」と親鸞聖人は歌っておられます。

「親鸞のこの深い苦悩が〈必ず救うぞ〉という阿弥陀さまの大悲の心を生んで下さったのだ」という聖人の深い喜びの歌です。

この私の深い悲しみがご縁となって、阿弥陀さまの大悲の心に目覚めさせて頂いた時、その苦悩さえも恵みとして受け取っていく人生が開かれます。

いかなる苦難をも恵みとして受け取っていく人生。これほど融通無碍な生き方はありません。
まさしく「細胞分化の全能性」であります。
お念仏はそんな生きる智慧を私たちに恵んで下さるのです。

平成１３年８月　「光明寺だより１７号」より